

手づくり提灯で 子どもたちに夢と感動を与える

北海道札幌市手稲区 ていね夏あかり実行委員会

ていね夏あかりの概要

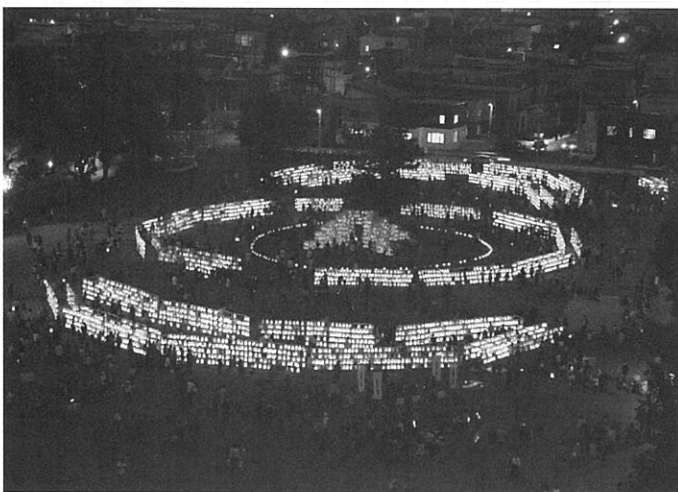
「ていね夏あかり」は、1992年（平成4年）に当時の北海道工業大学の大垣直明研究室の学生たちが手稲区民祭りの会場…区役所駐車場で学生自らが考案した手作り提灯450個を展示点灯したのが始まりで、当時は1保育園と1児童会館だけが参加していました。

その後徐々に手稲区内の小学校や児童会館、幼稚園、老人ホーム、福祉関係施設などの参加団体が増え続け、今年（令和3年）は、30回目となる「ていね夏あかり」を7月18日に無観客で開催しました。

手づくり提灯の制作個数の推移

「ていね夏あかり」の平成4年から平成23年の第20回までの20年間の累積制作個数は、約11万5000個です。第3回（平成6年）から初めて区内の小学校7校が参加し、第7回（平成10年）からは、手稲区内の全小学校16校が参加し、制作個数も5719個まで増加しています。第13回（平成16年）からは、手稲区内の全児童会館16館も参加しています。

2009年（平成21年）の第18回で初めて提灯制作個数が1万個を超え、以後7年間1万個以上を維持していました。近年第27回（平成30年）は、提灯個数…9501個、第28回（令和元年）は、制作個数…8451個でした。28年間の累積提灯制作個数は、雨天



2019年第28回ていね夏あかり会場の全景



中止となった第26回の点灯予定数を含めると18万3635個となっています。

実行委員会の顔ぶれ

「ていね夏あかり」は、平成11年より当実行委員会によって企画・運営・実施されており、以下の実行委員の団体等が毎年4月末から準備を始めます。

手稲区内小学校16校、手稲区PTA連合会、手稲区内小学校PTA16校、手稲区内児童会館16館、北海道科学大学・濱谷研究室・谷口研究室・旅行研究同好会・AC・ボランティア



小学校体育館で提灯の制作指導する大学生

ア局、手稲区スポーツ推進委員会、手稲おやじの会、札幌シニア大学手稲区同窓会、手稲区親と子のつどい「すばる」、札幌市子ども会育成連合会手稲区支部、手稲地区青少年育成委員会、手稲鉄北地区青少年育成委員会、札幌市手稲老人福祉センター、手稲区連合町内会連絡協議会、NPOワーカーズコープ、札幌市自立支援協議会手稲区地域部会、SKT365手稲。

実行委員会の運営経費について

運営経費は、年によって多少増減しますが、



小学校の教室で提灯の制作指導する大学生

毎年約130万円の予算で実施しており、この経費は手稲区内の病院や企業・各種団体などからの協賛金と札幌市からの助成金及び当日の屋台収益からのカンパ金で賄っています。

実行委員会の活動概要

実行委員会の活動は、学生たちが担っている活動が多く、それは主に開催に向けて準備作業や子どもたちへの提灯作りの指導役や会場設営などです。他の実行委員の活動も含めて紹介します。

■ていね夏あかり開催に向けた活動

- ①会場配置デザインのコМП、②会場全体模型の制作、③PRポスターの制作、④PR紹介パネル制作、⑤提灯和紙のカット作業、⑥提灯材料の発注、仕分け、配送、⑦提灯の合同及び分担制作、⑧協賛金集め、⑨提灯展示用部材の制作、⑩会場模型・パネル展示、JR手稲駅橋上広場、⑪小学校・児童会館等訪問指導。

■ていね夏あかり前日の作業

会場にて手稲区内の子どもたちや区民・学生が制作した手作り提灯を展示する部材を学生たちが会場に運び込み、1日かけて組み立て作業を実施しています。他の実行委員及び

事務局は、運営本部や緑日（屋台）テントの設営や音響・照明設備・案内提灯などの作業を担当します。

■ていね夏あかり当日の作業

会場に設置した提灯飾りつけ部材にロウソクをセットした提灯を取り付ける作業を実行委員総出で開始します。その後は、以下の作業を行います。①不具合提灯のチェックと補修、②当日制作コーナーの運営、③緑日（屋台）の運営、④提灯への火入れ、⑤フードコーナーの設営と撤収。



JR手稲駅改札前の広場「あいくる」でのPR

■ていね夏あかり翌日の作業

一部の提灯は、本番終了間際に関係者や子どもたちのご家族によって取り外されます。残った提灯は、翌日全て取り外し、運搬・保管用大型段ボールに入れて会場から各実行委員や制作団体によって運び出され、その後展示部材の解体・撤収・運搬・会場片付け作業を実施します。

実行委員会の活動成果

実行委員会メンバーでもある学生たちは、実際に小学校や児童会館などを訪問し、提灯制作指導をします。その時の体験談の一部を紹介します。

メンバーA「今年は、訪問3回目ということで、子どもたちとの接し方なども十分理解していたので非常にやりやすかった」

メンバーB「多くの子どもたちや地域の方と関わることができました。子どもたちは、無邪気になつてくれて迎え入れてくれたのが本当にうれしかったです」

当実行委員会によるこのまちづくりと世代間交流の現場は、実行委員と子どもたちや地域住民・提灯制作団体等との交流がとて新鮮で楽しく、毎年充実感や達成感で溢れています。このような活動を持続していくことで実行委員会は、「ていね夏あかり」が手稲の



自分の手作り提灯を探す親子連れ



子どもたちの手作り提灯の点灯後の光景

たな文化に育ってきているという確かな手ごたえを感じています。今後も我が町の大学・北海道科学大学の学生たちと協働でこのような活動に真摯に取り組んでいく所存です。

（ていね夏あかり実行委員会実行委員長

濱谷雅弘）